北越産業 Hokuetsu
第四のライン専用ラインシリーズ

◉高比重、高感度、高強度の素材「ポリアリレート」を採用した「第四のライン」に、魚種別、釣法別の専用ラインが発売される。今回、使用したのがヒラメに「第四のバーチカルライン・LT専用1.1号」、マダイに「第四のキャストライン・タイテンヤ専用0.6号」。従来の製品に特殊コーティングを施し、軟らかく、しなやかに改良、価格も抑えて、沖釣りを始め様ざまな釣りに対応するラインに仕上げてある。発売中。

◀電車結び、FGノットなど、ラインとの接続部分には瞬間接着剤を付ければ完璧

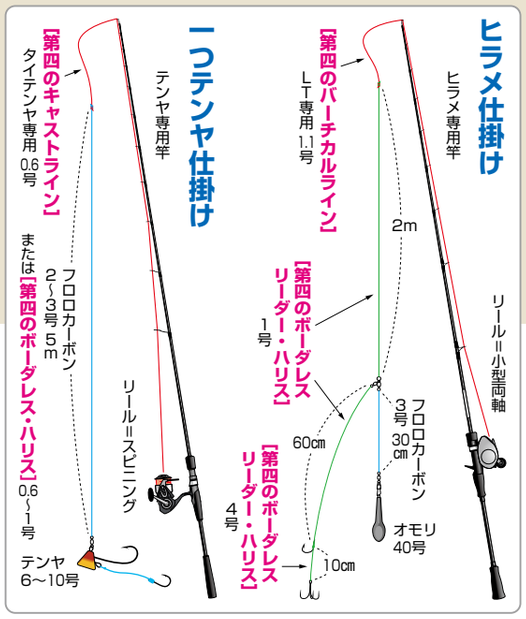
第四のバーチカルライン

対象魚種	参考号数(号)	長さ(m)	カラー	税別価格(円)
チヌかかり	0.325	75	イエロー	1,980
		150	イエロー	2,980
イカメタル	0.425	150	イエロー	2,980
イカ	0.6	200	ホワイト	3,980
タイラバ	0.625	200	ホワイト	3,980
		400		6,980
カワハギ	0.7	150	ホワイト	3,380
	0.9	200	イエロー	3,980
フグ	1	200	ホワイト	3,980
LT	1.1	200	ホワイト	3,980
		400	ホワイト	6,980
ベイジギング	2	200	ホワイト	3,980
		400	ホワイト	6,980

第四のキャストライン

対象魚種	参考号数(号)	長さ(m)	カラー	税別価格(円)
グレ・磯フカセ	0.6	150	イエロー	3,380
タイテンヤ	0.6	200	イエロー	3,980
		400	イエロー	6,980
シーバス	0.9	200	ホワイト	3,980
		400	ホワイト	6,980
ヒラメ	1.1	200	ホワイト	3,980
		400	ホワイト	6,980
スーパーサーフ	2	200	ホワイト	3,980
		400	ホワイト	6,980

※マーカーはありません。参考号数はPE対比。触った感じは太く感じますが、第四のラインは凹まないため、ゲージではなく、電子カメラベースで参考号数としています。結節部分には瞬間接着剤を利用してください。



[冷凍用ポリ袋]

◉釣った魚を冷凍するときに重宝するポリ袋。M、L、LLにひとまわりサイズアップしたMO、LO、LLOも追加発売。各100枚入り(LLOのみ50枚)。税別価格500～1100円。

▲星さんは初めて第四のキャストライン0.6号を使用

▼1キロ級のカンパチも手中に

▲午後のマダイは25メートルダチ。テンヤ、ルアー好みの釣り方で狙った

▶園部さんは終始スロージギで狙っていた

▼リーダーの先に第四のボーダレスリーダー・ハリス4号を25センチ付けたシステム

★マダイは1キロまでだが、放流サイズを含めて数は釣れた

★ヒラメは最大1.5キロ級。この時期としては良型

第四のラインに用途別、お手軽価格で新登場

飯岡沖ヒラメ&マダイで試釣 潮切れのよさ、強度を実証

九十九里飯岡港出船より

▶開始早々、加藤さんがヒラメを掛ける
◀ヒラメには道糸に第四のバーチカルラインLT専用1.1号を200メートル(製品版はホワイト)
▼加藤さんの2枚目は1キロ弱

★当日の動画は下記「つり情報チャンネル」でご覧になれます。

▲仕掛け部分に「第四のボーダレスリーダー・ハリス」4号。滅多なことでは切られない

▲ヒラメは飯岡沖の水深15メートル前後を狙った

◉PEラインのデメリットを補完する素材「ポリアリレート」を使用した北越産業の第四のラインは沖釣り界も席巻しつつある。高比重、耐摩耗性、何より強度に優れる特性が注目されている。今回は北越ユーザーが九十九里飯岡港から午前ヒラメ、午後マダイに挑戦した模様をお届けする。

九十九里飯岡港の優光丸に乗船したのは、北越産業の平野和之さんと、北越ユーザーの加藤正士さん、園部康弘さん。4時半に出船し30分ほど走った水深15メートル前後で第1投となった。

平野さんと加藤さんはライトヒラメスタイル。道糸に使用するのが「第四のライン」シリーズに新しく仲間入りした「第四のバーチカルライン、LT専用」1.1号だ。園部さんはスロージギングでの挑戦で、ルアーのチモトに、「第四のボーダレスリーダー・ハリス」4号を25センチ付けている。いわゆる「バイトリーダー」である。

開始早々、加藤さんが竿を曲げた。得意とするアユ釣りのシーズンオフは沖釣り三昧の加藤さんだけに、「ちょっと小さいなぁ」と言いながら余裕で0.5キロ級を取り込んだ。

これはイケると思ったものの、後が続かない。シケの影響でまだ潮が濁っており、上潮だけが異常に速く底潮が流れないせいだ。平野さんは道糸から仕掛けまで、オール第四のラインのセッティングで、同じく0.5キロ級の2枚目を釣り上げる。

「ほとんど伸びのないシステムです。海底状況はもちろん、イワシが暴れるのもハッキリ分かりますよ」

その後はアタリの少ない時間が続いたが、加藤さんが1キロ級、納竿直前に平野さんが1.5キロ級の良型を釣り上げて、ひとまず午前は終了となった。

午後からは同じく北越ユーザーの星直樹さんが加わって、一つテンヤマダイで出船。40分ほど走った25メートルダチで第1投となった。各自スピニングリールには「第四のキャストライン」0.6号が巻いてある。

午後になってから南風が強く、釣りづらい状況となるが、平野さんはこんなときこそ高比重、高感度の第四のラインだという。

「風と潮で道糸が大きく引き出されても、沈みが早いから底ダチも取りやすく、糸がフケにくいからアタリも出るんですよ」

午前のヒラメと同じくマダイも加藤さんが0.5キロ級を釣って口火を切る。右舷トモの星さんはテンヤ釣り3回目ながら、1キロ弱を釣ったかと思うと、大きく竿を曲げてのヤリトリで1キロ超級のカンパチと快進撃。後半になって園部さんのスロージギにもアタリが出始めたが、小型マダイの連発に終わる。午後6時前、各自が数枚の本命を手にして納竿。

「厳しい中でも少しは第四のラインが活躍してくれました。状況によってPEラインとの使い分けもありですよ」と言いながら平野さんは満足そうに船を下りるのであった。

◉Presented by Hokuetsu　問い合わせ=北越産業 ☎0250・68・2423

◉取材協力=九十九里飯岡港　優光丸 ☎090・7731・3470(詳細は情報欄参照)